



研究ほ場にこんにやく種玉を植え付ける会員

こんにやく玉 共同植え付け

振興会田人支部で

県下「こんにやく」振興会田人支部(油屋町支所長、会員二十一)は、このほど、共同でこんにやく種玉の植え付けを行った。

同支部はこんにやく玉の改良で増収をはかろうと、研究ほ場を設け、多種類のこんにやく種玉を植え付け、生育状態を観察するなどのこんにやくの振興に取り組んでいる。

植え付けには全会員が参加し、きれいに整地された畑に畝をたて、六十センチ間隔に種玉を並べるように置き、サラット表土をかき混ぜるだけで、この一見簡単で、こんにやくの作業がまた大変、種玉が発芽しやすい条件にするのがコツ。

植え付けは七月下旬に開業し、十月には収穫期を迎える。

会長に長瀬氏

いわき小袋フロンテラスの次年度(七月八月)役員が、このほど決まった。

役員は、会長に長瀬浩一(前会長)、副会長に高橋哲之助(三副)、幹事に菅原敏(幹事)、山口進(副幹事)、理事に小田雅吉(理事)、中村通(理事)、馬場上(理事)、石田定一(理事)、丹野太(理事)、北川治男(理事)、上野野賢(理事)、中村通、馬場上。

「お母さんの顔」全作品に記 本社窓口で渡しています

本社では、母の日にちなんでいわき市内の幼稚園、保育所園児から、お母さんの顔の図画を募集、十日から大黒屋デパートの協力で千五百二十点の全作品を展覧して、盛況を呼んだが、二十一日か

ら本社窓口で入選、佳作の賞品と参加賞を渡している。

賞品は入選が豪華な絵の具セット、佳作がクレヨンセット、参加賞が大黒屋提供のスケッチブック、二百三十三点出品の平均一幼園児(年齢トシ)

県がカマボコ業界企業診断

原料魚の高騰と確保難 先行きが不安

対策 業界一丸で近代化を

いわき市内の水産加工業者は二百弱時代を迎えたのを機に、原料魚のスケトウダラが高騰したばかりか確保も難しくなって経営も逼迫が深刻。このため経営の先行きに不安感をいだいている業者も少なくないが、県のカマボコ業界企業診断の結果わかった。この診断に基づき、県は今後の経営について「総合的に勝つためには、個々の業者はなほ業界が一丸となって、経営の近代化、技術導入に努め、また積極的な販路開拓、商品開発を進めること」を勧告した。

この診断は、個々の業者ではなかったもので、①今後の経営②二百弱時代の生産形態③新製品の開発④カマボコ業界全体について行われ、⑤生産形態の現状と、通しなど項目も、さらに項目

この一連の問題についても詳しく調査した。

市内にはカマボコ加工業者が五十一軒あり、年間約五万三千トンを生産し、全国ではトップの兵庫県の十三万五千トンを次いで、宮城の各九万二千トンを及ばないが、六位の生産量を誇っている。そのうち、一般家庭向けの小型

成形カマボコの生産量は多く全国一。ところが、経営規模を見ると、小規模(従業員十人以上を抱える)は三軒だけで、あとはそれ以下。従業員九人以上というが全体の二六・六%を占めている。経営の強弱、このため①工場設備の近代化、②機械配置の不良、③生産力の不足、④労働力不足、⑤労働力の不足、⑥労働力の不足、⑦労働力の不足、⑧労働力の不足、⑨労働力の不足、⑩労働力の不足、⑪労働力の不足、⑫労働力の不足、⑬労働力の不足、⑭労働力の不足、⑮労働力の不足、⑯労働力の不足、⑰労働力の不足、⑱労働力の不足、⑲労働力の不足、⑳労働力の不足、㉑労働力の不足、㉒労働力の不足、㉓労働力の不足、㉔労働力の不足、㉕労働力の不足、㉖労働力の不足、㉗労働力の不足、㉘労働力の不足、㉙労働力の不足、㉚労働力の不足、㉛労働力の不足、㉜労働力の不足、㉝労働力の不足、㉞労働力の不足、㉟労働力の不足、㊱労働力の不足、㊲労働力の不足、㊳労働力の不足、㊴労働力の不足、㊵労働力の不足、㊶労働力の不足、㊷労働力の不足、㊸労働力の不足、㊹労働力の不足、㊺労働力の不足、㊻労働力の不足、㊼労働力の不足、㊽労働力の不足、㊾労働力の不足、㊿労働力の不足、

「いまは新入社員見込」

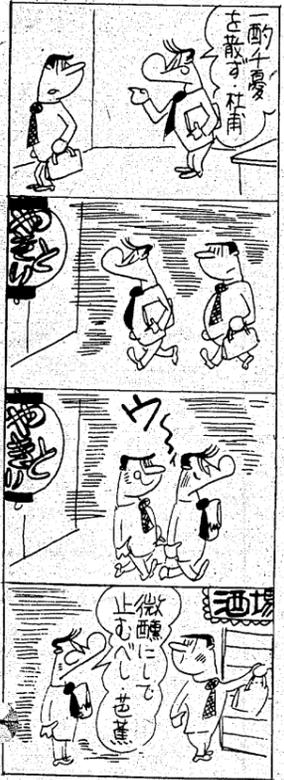
バス停にはまなす荘機関紙

家族サービス

暮らし随筆

へんさん

9250 中島安男



表情ゆたかな街づくりを……

●住みよいふるさとを拓く

宅建免許(3)第137号

全南開発株式会社

いわき市平字十五丁目20-1 ☎(0246) 21331代

郷土

